

令和5年度農山漁村振興交付金事業実施提案書

農山漁村発イノベーション対策

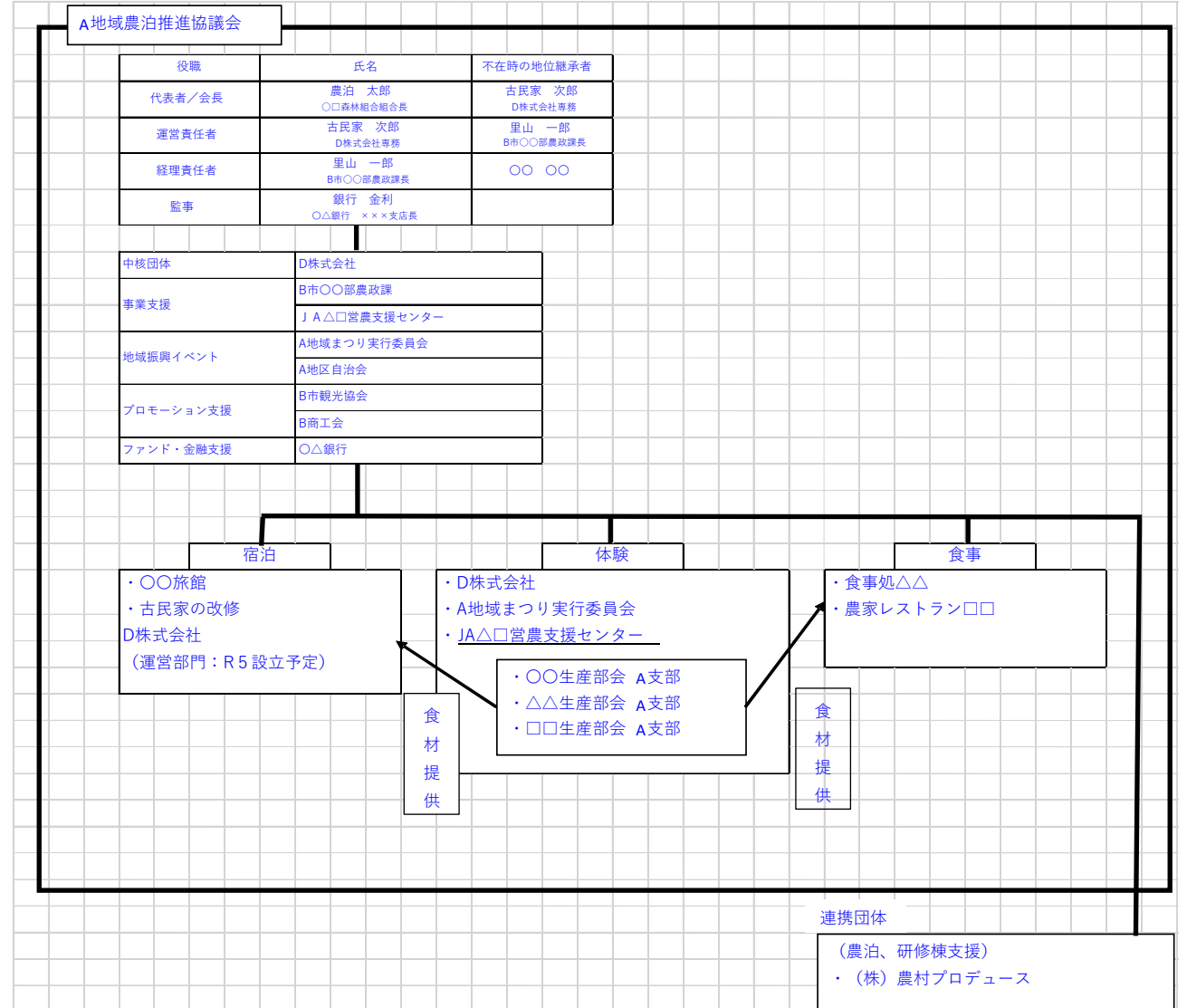
農山漁村発イノベーション推進事業（農泊推進型）のうち
農泊推進事業、人材活用事業及び農家民宿転換促進事業並びに
農山漁村発イノベーション整備事業（農泊推進型）

事業実施主体名	A 地域農泊推進協議会
代表者の氏名	農泊 太郎
住 所	〒000-0000 C県B市A 111-2
電話番号	0000-00-0000
電子メールアドレス	kakikuke@suishin.jp

基本情報

- 組織形態（事業実施主体）：
ソフト対策：地域協議会（A地域農泊推進協議会）
ハード対策：中核法人（D株式会社）
- 取組地域の所在する都道府県・市町村：
C県B市
- 事務局（団体名）：
B市役所農政課
- 事務局の所在地及び連絡先：
〒000-0000 C県B市A 1234-5
TEL：0000-00-0000
e-mail：sashisuse@nouhaku.jp
- 市町村の参画（有り・無し）：
有り
- 上記有りの場合、参画市町村の部署名及び連絡先：
B市〇〇部農政課
TEL：0000-00-0000

事業実施体制図



キャッチフレーズ【主に都会からの家族連れを対象に、四季を通じた多彩なイベントの開催と田舎料理が楽しめる、第2のふるさとづくり】

○取組のポイント：地域の豊かな自然環境を活かし、四季を通じた多彩なまつりやイベントを定期的で開催し、地域外から訪れる家族連れにも参加してもらい地域の魅力を伝えるとともに、築80年以上の古民家で地域の特産である△△や□□を活用した、郷土料理を楽しみながら関係人口の拡大と地域活性化につなげる。

取組の概要

■1 農泊推進事業 ■2 人材活用事業 □3 農家民宿転換促進費 ■4 市町村・中核法人実施型 □5 農家民泊経営者等実施型

取組内容

解決される地域課題

①【1年目】地域ぐるみの農泊とするため、宿泊、食事、体験を担う活動組織の参画により、地域協議会を設立する。地域住民が協力して行う地域資源を活用した体験コンテンツを上げるための会議やワークショップを8回程度開催する。先進地であるE県F市G地域協議会の取組を視察し、農泊の受入体制・取組実施・人材育成に必要な技術やノウハウ等を学ぶ。更に、農泊や体験の提供に関する実践研修会・地域資源の洗い出し検討会を開催する。

【2年目】地域住民が協力して行う地域資源を活用した体験コンテンツを上げるための会議やワークショップを8回程度開催する。更におもてなし研修会・収益向上研修会を開催を開催する。

②【1年目】10月に開催される〇〇神楽を活用した体験ツアーを造成する。地元農家やJAの協力を得て、遊休農地を活用した農泊滞在者向けの体験農園コンテンツを造成する。地域で採れる〇〇や〇〇などの伝統野菜を活用した看板料理を開発し試食会をする。造成した体験コンテンツや食メニューについてモニターツアーを実施する。A地域協議会のホームページを作成する。

【2年目】（仮）憩いの家にて木工体験・郷土料理づくり体験を造成すると共に、1年目に造成した体験プログラムや食メニューを磨き上げ、モニターツアーや試食会を実施する。A地域協議会のホームページにて体験コンテンツの予約の受付ができるようにする。PRパンフレットを作成し、観光事業者へ郵送すると共に地域の観光施設等に設置する。構成員の宿泊施設がOTAサイト等のオンライン予約に対応できるようにする。

③人材活用事業により、研修生を2名受入、農泊の取組に従事してもらうとともに、交付金終了後も引き続き農泊施設の運営や農泊の取組を行う。

④D株式会社が所有する遊休施設（古民家）を一棟貸しの宿泊施設「（仮）憩いの家」として改修する。木工体験や郷土料理づくり体験を行えるようにする他、地域の各体験コンテンツの予約もできるようにする。【1年目】実施設計を行う。【2年目】木造平屋建の改修工事を行う。

①過疎化・高齢化が進行し、地域内には空き家や耕作放棄地などが増加している。四季を通じた自然景観、古くから地域に伝わる伝統文化や祭り（神楽）は地域の誇りであり、これらを消滅させないためにも、農泊に取り組む事で、関係人口の拡大や移住定住を通じた地域活性化につながる。

②観光客を受け入れる事で、地域の環境美化等の保全活動につながるとともに、伝統野菜や地域食材の活用により農家の生産意欲の拡大や遊休農地の解消に寄与する。また、宿泊や食事の提供により地域にお金が循環する仕組みが生まれ、地域活性化につながる。

③地域内には農泊の取組に従事する担い手が皆無の為、人材活用事業により地域外から研修生を受け入れる事で、若い担い手を確保し、将来的にも農泊の取組に従事する体制を構築する。

④地域に不足している宿泊施設を整備することで、通過型観光から滞在型観光への転換を目指す。更に、地域活性化の中核施設として地域の各体験コンテンツ等をつなぐ役割を果たす。

活用する主な地域資源（地域のキラコンテンツ）

四季を通じた自然景観と環境（〇〇河川敷の桜並木、〇〇山周辺の新緑や紅葉、清流〇〇川など）
山菜やキノコ、主にこの地域で栽培される〇〇茄子（夏）と〇〇芋（秋）、郷土料理の〇〇〇と□□□
春の祭礼、〇〇桜まつり、秋の〇〇神楽など



〇〇河川敷の桜並木



地域特産の〇〇茄子

宿泊

地域内には、既存の旅館が1軒あり定員〇〇人の受入が可能である。また、D株式会社が築80年以上の古民家を改修し、一棟貸の宿泊施設「（仮）憩いの家」（定員10人）を整備する。隣接市には、人気スポットである〇〇動物園もあり、海外からのインバウンド客も多く訪れることから、外国からの家族連れの宿泊にも対応することとする。



改修予定の古民家



〇〇〇〇の様子

食事

A地域は、〇〇芋や〇〇茄子などの伝統野菜の産地で、郷土料理である〇〇や〇〇などの田舎料理はここでしか味わえない地域食となっている。郷土料理については、農家レストラン□□で提供しているが、今後は地域の家庭で食べられていた〇〇などの田舎料理も含めレシピを統一し、宿泊施設や食事処でも提供することとする。さらに、新たな食事メニューも開発し、地域の特産品として売り出す。



〇〇芋を使った「〇〇料理」



〇〇〇〇の様子

体験

A地域まつり実行委員会が、春の祭礼や秋の〇〇神楽を農泊に訪れた人達にも参加してもらえる内容に見直すとともに、「旅マエ」・「旅アト」でも地域とSNSで繋がる工夫をする。遊休農地を活用し、〇〇芋や〇〇茄子など地域に伝わる伝統野菜を栽培したり収穫体験できるよう、〇〇生産部会A支部や地元の高齢農家にも協力いただき、体験者への指導や栽培管理を依頼する。D株式会社が「（仮）憩いの家」にて木工体験や郷土料理づくり体験を造成し、提供する。



郷土料理づくり（イメージ）

当該農泊地域の将来像

主に都市住民の若い家族連れを積極的に受け入れ、農泊の取組を通じて、四季を通じた豊かな自然環境や祭り、伝統野菜や郷土料理など、地域の魅力を知って貰う事で、リピーターとしての定着を図りつつ関係人口の拡大と移住・定住に向けた第2のふるさとづくりを目指す。また、地域においても、農泊を通じて新たな雇用の創出や地域活性化を実現し、今後も住み続けられる地域づくりを目指す。

市町村（地方公共団体）の関わり・支援

B市〇〇部農政課が協議会の構成メンバーに参画しており、農泊の取組について情報発信や事業推進に関し連携を図るとともに、今後活動の継続性を見て市単独事業により支援を行う。

農泊取組範囲

C県B市A地域 (旧A町)



食事 (農家レストラン □□)

宿泊 (憩いの家・古民家改修)

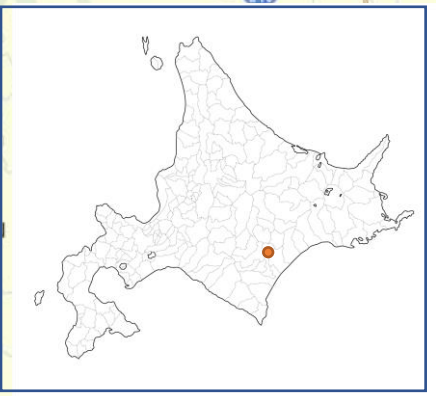
体験 (木工体験、郷土料理づくり体験)

体験 (農作業・収穫体験)

食事 (食事処△△)

宿泊 (〇〇旅館)

体験 (〇〇神楽、〇〇まつり)



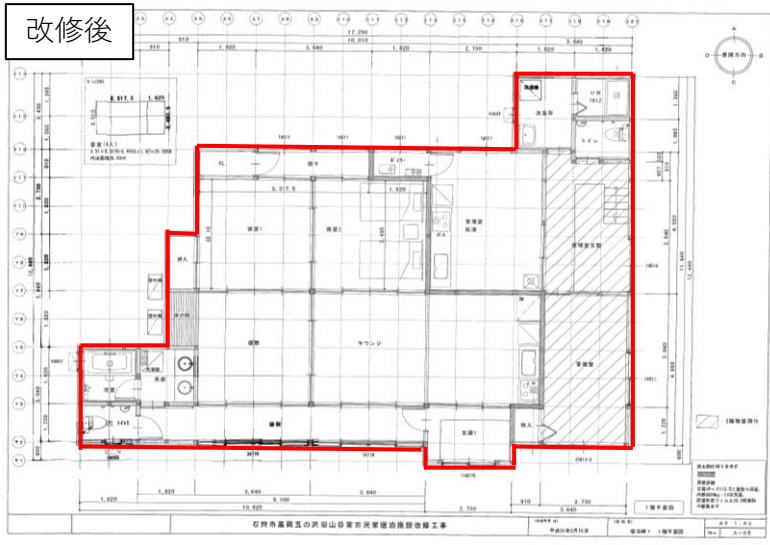
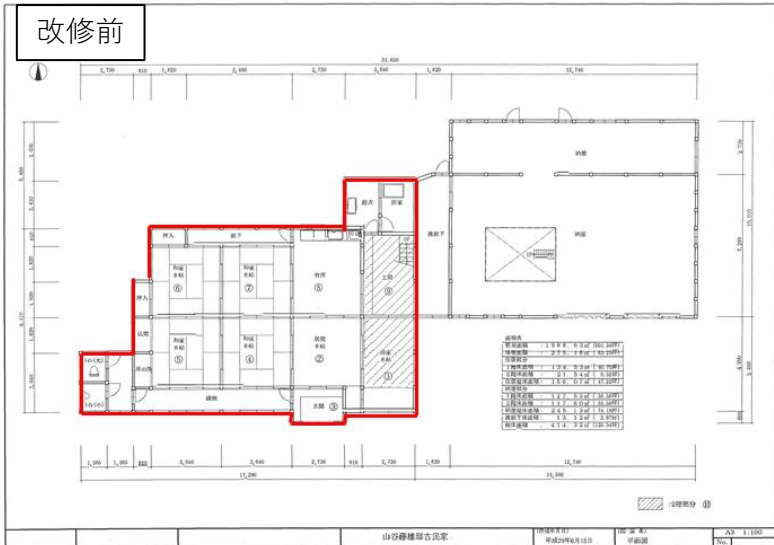
○施設整備の概要：築80年以上の遊休施設である古民家1棟を宿泊施設と体験施設（木工体験）として改修し、地域のシンボルとして再生するとともに、地域内にある地域資源（自然景観、祭り（神楽など）、伝統野菜、郷土料理など）を活用し、農山漁村滞在型旅行を通じた、第2のふるさとづくりや移住・定住のきっかけづくりにつなげる。改修はリビング、客室（2部屋）、浴槽・脱衣場設置、洋式トイレ、浄化槽新設、壁設置、屋根の葺き替え等。

基本情報

- 事業の型：市町村・中核法人実施型
- 取組地域の所在する都道府県・市町村：C県B市
- 事業実施主体の所在地及び連絡先：
 - 〒000-0000 C県B市A 111-2
 - TEL：0000-00-0000
 - e-mail：kakikuke@suishin.jp
- 施設運営団体：D株式会社
- 事務局の所在地及び連絡先：同上
- 事業の期間：令和5年度から6年度

	令和5年度	令和6年度	備考
事業費（千円）	6,000	36,000	
うち交付金額	3,000	18,000	
主な事業内容	実施設計	工事費 建設工事	

基本設計（平面図及びイメージ図）



施設整備事業において改修を行う施設

地図等で施設位置を明示

整備対象施設位置図

別添

令和5年度農山漁村振興交付金事業実施チェックシート

農山漁村発イノベーション対策 農山漁村発イノベーション推進事業(農泊推進型)のうち農泊推進事業、人材活用事業及び農家民宿転換促進費並びに農山漁村発イノベーション整備事業(農泊推進型)

事業メニューの選択

Table with 2 columns: Selection status (checkbox) and Item name (e.g., 農泊推進事業, 人材活用事業).

地域・事業実施主体の概要

Table with 4 columns: Item, Current value, Mid-term value, Target value. Rows include 事業実施主体, うち宿泊関係者数, etc.

※団体数は構成員が所属する組織数とする。

課題に対する対応(営業の最低継続期間)

Table with 4 columns: Question number, Description, Answer (Yes/No), and Duration (Year).

目標

Table with 5 columns: Target item, Current (FY4), Mid-term (FY5), Target (FY6), and Target setting method. Includes 売上高, 延べ宿泊者数, etc.

※ 数値は事業実施主体の構成員の数値の単純合計とする。

Table with 3 columns: Target item, Current (FY4), and Target (FY9). Includes 年間宿泊者数.

Table with 6 columns: Target item, Current (FY4), Mid-term (FY5), Mid-term (FY6), Target (FY7), and Target setting method. Includes 売上高, 延べ宿泊者数, etc.

※ 改修施設ごとの数値及びその合計値を記載すること。

- ※1 目標年度は、農泊推進事業のみを実施する場合は事業完了年度、施設整備事業を実施する場合は事業開始から起算して3年目とする。
※2 「目標設定の考え方」について、客観的な数値(例: 県の観光計画、近年の旅行者数の伸び、インバウンド需要の伸び(LCC就航、クルーズ船入港計画等)、観光インフラ整備状況)を基礎として記載することとする。
※3 評価指標については、飲食店の来店者数、直売所の来場者数、体験プログラム数等、上表(1)~(2)の目標の達成に向けた評価項目を複数設定すること。
※4 「目標及び評価指標設定の考え方」には、目標年度までの途中年度の目標を記載すること。
※5 「農泊推進事業と施設整備事業(市町村・中核法人実施型、農家民宿経営者等実施型)を合わせて行う場合、農泊推進事業の目標の数値には、施設整備事業の目標の数値を含まないものとする(売上高、宿泊者数ともダブルカウントしないこと)。
※6 「収支見通し」と整合を図ること。

農泊推進事業・人材活用事業(施設整備事業分を除く)

【売上高】

単位:万円

構成員名	宿泊・飲食・体験	現状	途中年度	目標年度	食材提供農業者等名
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
〇〇旅館	宿泊	1,920	1,920	2,160	JA△□営農支援センター
農家レストラン□□	飲食	900	900	1,056	JA△□営農支援センター
食事処△△	飲食	800	800	1,056	JA△□営農支援センター
A地域まつり実行委員会	体験	0	0	72	
JA営農支援センター	体験	0	0	38	
合計		3,620	3,620	4,382	

【延べ宿泊者数】

単位:人/泊

構成員名	宿泊	現状	途中年度	目標年度	備考
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
〇〇旅館	宿泊	960	960	1,080	定員10人。営業日数240日/年。令和4年度稼働率40%、令和5年度稼働率40%、令和6年度稼働率45%
合計		960	960	1,080	

施設整備事業

【売上高】

単位:万円

事業実施主体名 (施設名)	宿泊・飲食・体験	現状	途中年度	途中年度	目標年度	食材提供農業者等名
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
D株式会社 (仮)憩いの家	宿泊	0	0	720	1,440	JA△□営農支援センター
D株式会社	体験	0	0	54	108	JA△□営農支援センター
合計		0	0	774	1,548	

【延べ宿泊者数】

単位:人/泊

事業実施主体名 (施設名)	宿泊	現状	途中年度	途中年度	目標年度	備考
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
D株式会社 (仮)憩いの家	宿泊	0	0	360	720	
合計		0	0	360	720	

地域・事業実施主体の概要 (ピンクセルは入力不要)

<input checked="" type="checkbox"/>	事業実施主体(地域協議会)構成員数(団体数)	50名	11団体
<input checked="" type="checkbox"/>	うち宿泊関係者数(団体数)	5名	2団体
<input checked="" type="checkbox"/>	うち飲食関係者数(団体数)	4名	2団体
<input checked="" type="checkbox"/>	うち体験プログラム提供者数(団体数)	10名	3団体
<input checked="" type="checkbox"/>	上記以外の連携団体の有無 (有の場合は、連携団体の構成員数(団体数))	3名	1団体

事業実施主体構成員(上記表の構成員数と整合)

事業実施主体構成員(団体又は個人)の名称[法人形態]	中核法人	事業実施主体内における役割	インバウンド受入対応の可否	ワーケーション受入対応の可否
所在地及び連絡先				
D株式会社	○	プロジェクトの全体総括 宿泊施設の運営(1棟貸し 定員10名) 地域協議会の運営・管理 木工体験・郷土料理づくり体験の造成と運営	○	○
C県B市A111-2 TEL0000-00-0000				
B市〇〇部農政課(行政機関)		行政支援 情報提供		
C県B市A1234-5 TEL0000-00-0000				
JA△△営農支援センター		生産者組織からの地元農畜産物の提供・斡旋 体験農園や観光農園の支援		
C県B市A2323 TEL0000-00-0000				
A地域まつり実行委員会		体験プログラム(神楽の体験プログラムの造成と運営)		
C県B市A1313 TEL0000-00-0000				
B市観光協会		体験プログラムの情報発信、観光客等への紹介		
C県B市A1234-8 TEL0000-00-0000				
B商工会		経営アドバイザー 情報発信		
C県B市A1234-9 TEL0000-00-0000				
〇〇旅館		宿泊施設(定員10人)	○	
C県B市A2222 TEL0000-00-0000				
食事処△△		飲食の提供 レシピづくり		
C県B市A2121 TEL0000-00-0000				
農家レストラン□□		飲食の提供 レシピづくり		
C県B市A2134 TEL0000-00-0000				
A地区自治会		地域の環境美化 体験プログラムの協力(農作業体験・収穫体験) 貸し農地の管理		
C県B市A1122 TEL0000-00-0000				
〇△銀行		ファンド・金融支援 監査		
C県D市1234 TEL0000-00-0000				

※1 地域協議会構成員については、宿泊、食事及び体験プログラムを提供する者を含むこと。

※2 「事業実施主体内における役割」欄には、「体験プログラム(〇〇〇)を提供」「飲食店(〇〇〇)を提供」「宿泊(定員:〇名)」等具体的に記載すること。

※3 事業実施主体が連携体の場合は、地域協議会及びその構成員である農家民泊経営者等を全て記載すること。

※4 「中核法人」欄には中核法人(農泊実施の中心的な役割を担う法人又は当該法人となることが見込まれる団体)である者の箇所に「○」印を記載すること。

役員名簿

役職等	氏名		氏名
①代表者	農泊 太郎	①の地位継承者	古民家 次郎
②運営責任者(プロジェクトマネージャー)	古民家 次郎	②の地位継承者	里山 一郎
③事務局長	里山 一郎	③の地位継承者	森川 郷子
④経理責任者	里山 一郎	④の地位継承者	森川 郷子
監査	銀行 金利		

※1 「事業実施主体構成員」における役割分担を踏まえつつ、代表者、運営責任者(プロジェクトマネージャー)、経理責任者及び代表者が不在となった場合の地位継承者等を必ず明示すること。

※2 代表者、運営責任者(プロジェクトマネージャー)、経理担当者については、経歴や実績(ただし、観光や地域振興に関係した分野に限定)を添付すること。

事業計画とその経費の内訳(※ 積算資料は必ず添付してください。)(ソフト+ハード一体用)

取組内容と主な経費(1年目)

(単位:千円)

取組内容	総事業費	本交付金	他の補助金等	自己資金	備考
1. 農泊推進事業	①=②+③+④	②	③	④	
合計	¥5,000	¥5,000	¥0	¥0	
会議・ワークショップ	¥450	¥450	¥0	¥0	
先進地視察	¥250	¥250	¥0	¥0	
研修会・検討会	¥250	¥250	¥0	¥0	
体験プログラムの開発	¥1,100	¥1,100	¥0	¥0	
レシピ開発・試食会	¥1,000	¥1,000	¥0	¥0	
モニターツアー	¥300	¥300	¥0	¥0	
情報発信(HP作成)	¥600	¥600	¥0	¥0	
全体事務・事業調整 (臨時雇用)	¥1,000	¥1,000	¥0	¥0	
パソコンリース	¥50	¥50	¥0	¥0	
2. 人材活用事業	①=②+③+④	②	③	④	
合計	¥2,700	¥2,500	¥0	¥200	
求人費用	¥200	¥200	¥0	¥0	
研修参加	¥200	¥200	¥0	¥0	
先進地調査	¥100	¥100	¥0	¥0	
研修費(人件費)	¥2,200	¥2,000	¥0	¥200	
3. 施設整備事業 (市町村・中核法人実施型)	①=②+③+④	②	③	④	
実施設計	¥6,000	¥3,000	¥0	¥3,000	

注1 取組内容は、提案書の取組内容(課題に対する対応)と整合を図ること。

注2 「他の補助金等」又は「自己資金」がある場合は、備考欄に資金の性格(相手方、資金の受入時期等)を必ず記載すること。

注3 施設整備事業(農家民泊経営者等実施型)において農家民泊転換促進費を活用する場合は、「総事業費」の欄において旅館業法に基づく簡易宿所の営業許可を取得するのに最低限必要な設備の整備の費用(※1)を、「本交付金」の欄において農家民泊転換促進費(※2)を括弧内に記載すること。

事業計画とその経費の内訳(※ 積算資料は必ず添付してください。)(ソフト+ハード一体用)

取組内容と主な経費(2年目)

(単位:千円)

取組内容	総事業費	本交付金	他の補助金等	自己資金	備考
1. 農泊推進事業	①=②+③+④	②	③	④	
合計	¥5,000	¥5,000	¥0	¥0	
会議・ワークショップ	¥450	¥450	¥0	¥0	
研修会	¥500	¥500	¥0	¥0	
体験プログラムの磨き上げ	¥500	¥500	¥0	¥0	
レシピの磨き上げ・試食会	¥700	¥700	¥0	¥0	
モニターツアー	¥300	¥300	¥0	¥0	
情報発信(HP、SNS発信)	¥800	¥800	¥0	¥0	
情報発信(パンフレット作成)	¥600	¥600	¥0	¥0	
OTA対応	¥100	¥100	¥0	¥0	
全体事務・事業調整 (臨時雇用)	¥1,000	¥1,000	¥0	¥0	
パソコンリース	¥50	¥50	¥0	¥0	
2. 人材活用事業	①=②+③+④	②	③	④	
合計	¥2,400	¥2,200	¥0	¥200	
研修参加	¥200	¥200	¥0	¥0	
研修費(人件費)	¥2,200	¥2,000	¥0	¥200	
3. 施設整備事業 (市町村・中核法人実施型)	①=②+③+④	②	③	④	
工事費	¥36,000	¥18,000	¥0	¥18,000	

注1 取組内容は、提案書の取組内容(課題に対する対応)と整合を図ること。

注2 「他の補助金等」又は「自己資金」がある場合は、備考欄に資金の性格(相手方、資金の受入時期等)を必ず記載すること。

注3 施設整備事業(農家民泊経営者等実施型)において農家民宿転換促進費を活用する場合は、「総事業費」の欄において旅館業法に基づく簡易宿所の営業許可を取得するのに最低限必要な設備の整備の費用(※1)を、「本交付金」の欄において農家民宿転換促進費(※2)を括弧内に記載すること。

施設整備計画(施設整備事業(市町村・中核法人実施型、農家民泊経営者等実施型))

(1)事業内容及び事業量

○施設及び土地の所有状況等について

- 施設及び土地を取得済み
 施設等の取得に向け、所有者から内諾済み
 施設等の賃貸契約に向け、所有者から内諾済み
 その他(状況を具体的に記載:)

○施設整備において関係法規に基づく許認可の見込み

- 有り

(2)事業費及び資金計画

施設名	新設・改修	事業費(千円)A	国費(千円)B	交付金以外の財源 C=A-B(千円)
(仮)憩いの家	改修	42,000	21,000	21,000

※ 改修施設毎に記載すること。

※ 新設の場合は、費用対効果分析表を作成すること。

※ 施設整備事業(農家民泊経営者等実施型)において農家民宿転換促進費を活用する場合は、「事業費」の欄において旅館業法に基づく簡易宿所の営業許可を取得するのに最低限必要な設備の整備費用(※1)を、「国費」の欄において農家民宿転換促進費(※2)を括弧内に記載すること。

・C欄の資金計画

※ 出資、融資、自己資金等の資金計画を明らかにすること。

(単位:千円)

項目	金額	備考
自己資金	6,000	ソフトに係る運転資金は別途協議会メンバーで準備する
融資(創業資金)	15,000	○△銀行

(3)収支計画

(単位:千円)

施設名	(仮)憩いの家			
年度	収入A	支出B	C=A-B	項目
令和5年度	¥0	¥0	¥0	
令和6年度	¥7,740	¥6,673	¥1,067	【収入】 宿泊:宿泊者 360人 7,200千円 体験:体験者 180人 540千円 【支出】 人件費:3,270千円 販管費:3,069千円 返済額:300千円(利子含) 火災保険料:34千円
令和7年度	¥15,480	¥12,059	¥3,421	【収入】 宿泊:宿泊者 720人 14,400千円 体験:体験者 360人 1,080千円 【支出】 人件費:4,324千円 販管費:5,760千円 返済額:1,951千円(利子含) 火災保険料:24千円

※ 項目欄には、収入の基礎となるデータ(来客数、販売数、客単価等)及び支出の基礎となるデータ(仕入れ数、雇用者数、仕入れ単価等)を記載すること。

※ 改修施設ごとの当該施設単独での収支計画を記載すること。

※ 「収支見直し」と整合性をとること。

(4)償還計画

想定金利: 2.0%

返済10年元金均等返済 12か月据置

(単位:千円)

年度	期首残高	借入又は償還の額	期末残高	融資条件
令和6年度	16,662	300	16,362	元金均等返済
令和7年度	16,362	1,951	14,411	
令和8年度	14,411	1,918	12,493	
令和9年度	12,493	1,885	10,608	
令和10年度	10,608	1,851	8,757	
令和11年度	8,757	1,818	6,939	
令和12年度	6,939	1,785	5,154	
令和13年度	5,154	1,751	3,403	
令和14年度	3,403	1,718	1,685	
令和15年度	1,685	1,685	0	

※ 事業実施主体が地域協議会と農家民泊経営者等との連携体の場合、改修施設を所有する農家民泊経営者等ごとの償還計画を記載すること。

収支見通し

事業実施主体構成員に記載する構成員メンバーを記載すること。
 宿泊実施の中心的に役割を担う法人又は当該法人になることが見込まれる団体が分かるようにアンダーラインで示すこと。

D株式会社、B市〇〇部農政課、JA△〇営農支援センター、A地域まつり実行委員会、B市観光協会、B商工会、〇〇旅館、食事処△△、農家レストラン□□、A地区自治会、〇△銀行

(単位:千円)

	令和4年度 (現在)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
宿泊	19,200	19,200	28,800	36,960	
宿泊者数	960	960	1,080	1,128	〇〇旅館
宿泊単価	20	20	20	20	20,000円/人(1泊2食)
宿泊者数	0	0	360	720	D株式会社 施設整備R6年完了
宿泊単価	20	20	20	20	20,000円/人(1泊2食)
飲食	17,000	17,000	21,120	21,120	
来店者数	6,000	6,000	6,600	6,600	農家レストラン□□
飲食単価	2	2	2	2	
来店者数	8,000	8,000	8,800	8,800	食事処△△
飲食単価	1	1	1	1	
体験プログラム販売	0	0	1,640	3,280	体験プログラム名を記載(収支は体験プログラムごとに作成する)
プログラム参加者	0	0	180	360	木工体験・郷土料理づくり体験
単価	0	0	3	3	3,000円/人
プログラム参加者	0	0	240	480	神楽体験
単価	0	0	3	3	3,000円/人
プログラム参加者	0	0	190	380	農作業・収穫体験
単価	0	0	2	2	2,000円/人
その他					直売所等の収益を記載
売上	36,200	36,200	51,560	61,360	
人件費	21,000	21,000	24,820	28,640	〇〇〇〇千円/人/年(※平均単価)
・宿泊費分	9,000	9,000	12,000	15,000	3,000千円/人/年
・飲食費分	12,000	12,000	12,000	12,000	3,000千円/人/年
・体験費分	0	0	820	1,640	体験売上の50%
販管費等	13,630	13,630	19,486	23,324	
・宿泊費分	7,680	7,680	11,520	14,784	宿泊売上の40%
・飲食費分	5,950	5,950	7,392	7,392	飲食売上の35%
・体験費分	0	0	574	1,148	体験売上の35%
補助金自己負担分	0	3,000	3,000	0	
借入金返済	0	0	300	1,951	借入金返済
火災保険料	0	0	34	24	24千円、初年度登録料(10千円)
経費	¥34,630	¥37,630	¥47,640	¥53,939	
経常利益	¥1,570	¥-1,430	¥3,920	¥7,421	事業完了年度の翌年度までに黒字化を達成する計画とすること

【体験メニューの具体的内容】

実施するメニューの詳細な内容、及び実施事業者について記載すること。

○木工体験・郷土料理づくり体験(D株式会社)

宿泊者を対象に地域の木材である杉を活用した木工体験や、伝統野菜(〇〇茄子、〇〇芋など)を使った郷土料理づくり体験を楽しんでいただく。

○神楽体験(A地域まつり実行委員会)

地域に伝わる神楽の伝承を地元の語り部から聞くとともに、実際に装束をまとい踊りの実演を体験いただく。

○農作業・収穫体験(JA△〇営農支援センター)

地域内で栽培される伝統野菜(〇〇茄子、〇〇芋など)の栽培や、契約農家で栽培してもらった果樹や野菜の収穫体験を楽しむ。その他、援農ボランティアなど時期に応じた様々な体験メニューを準備。